資料－２－１

令和５年２月 28 日

国土交通省中部地方整備局長
稲田　雅裕　様

名古屋市長　河村　たかし

木曽川水系連絡導水路事業に関する提案について

本市は、水需要予測に基づき徳山ダム建設事業に参画し、将来の水需要増加に対して不足する水利権の確保を図ってきた。しかし、昭和 47 年度に行った昭和 60 年度時点の水需要予測 224 万 m^3/日、平成 16 年度に行った平成 27 年度時点の水需要予測 124 万 m^3/日に対して、平成 27 年度の実績は 87 万 m^3/日など、結果として水需要予測と実績に大きな乖離が生じている。

一方、本市としては、渇水時にも安定した給水サービスを継続できるよう、長期的な視点から水源の多系統化を進めており、平成６年のような深刻な渇水においても、市民生活や都市活動に大きな影響が生じないよう、これまでに確保した水源を有効に活用していく必要がある。

こうした中、昨今においては、令和４年５月の明治用水頭首工における漏水や令和４年９月の静岡市における取水口閉塞に伴う大規模断水など、水供給に影響を及ぼす事象が発生している。

また、近年では線状降水帯などによる豪雨により、全国の至る所で水災害が発生している。本市が位置する濃尾平野には木曽川、長良川、揖斐川及び庄内川などが流れ、日本最大の海抜ゼロメートル地帯でもある。大河川である木曽川流域が想定最大規模の降雨に見舞われた際には、本市の中川区及び港区を含む東海三県の広範囲に浸水被害が生じることが想定され、多くの方の生命・財産・暮らしに被害をもたらすとともに、日本経済に大きな打撃となりうる。

さらに、本市の土台を築き上げた庄内川水系堀川の水質は、市民のご協力や庄内川からの導水、河川整備によるヘドロの浚渫などにより一定の改善は図っているが、中部圏を代表する国際都市名古屋にある川として、より一層の水質改善に努める必要がある。

これらの諸課題に対して適切に対応していくため、木曽川水系連絡導水路について考え方を転換し、当初目的である量的確保に加え、次の通り「新用途」とともに事業名を変更されることを提案する。

（１）安心・安全でおいしい水道水の安定供給

本市の水源に揖斐川を追加することで平常時における水道水の質的確保を図るとともに、新用途の導水からの直接取水などによりリスクへの対応力を向上

（２）流域治水の推進

大雨の予測時に木曽川ダム群において積極的な事前放流を行い、水災害を防ぐとともに、その後の河川の流況を確保するため新用途の導水を活用

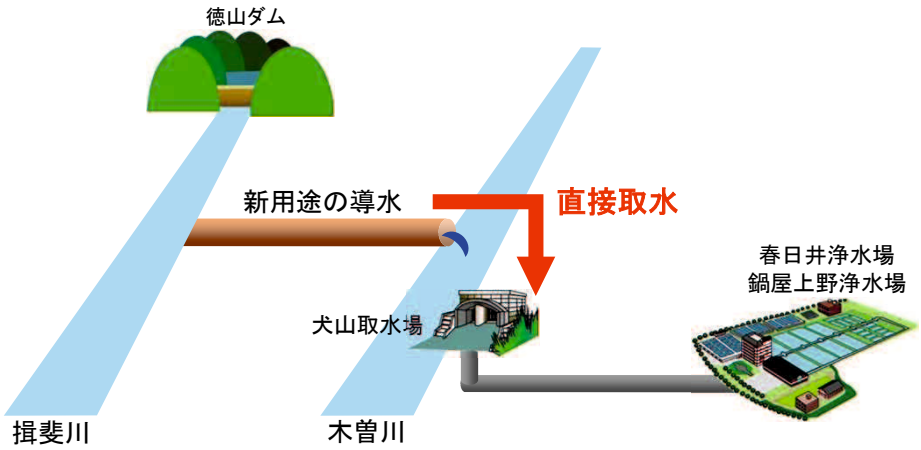
（３）堀川の再生

新用途の導水を活用した堀川への恒久的な導水

なお、本市としても、関係機関と連携しながら、本提案の実現に向けて取り組んでいく所存である。

新用途の導水

新用途① 安心・安全でおいしい水道水の安定供給

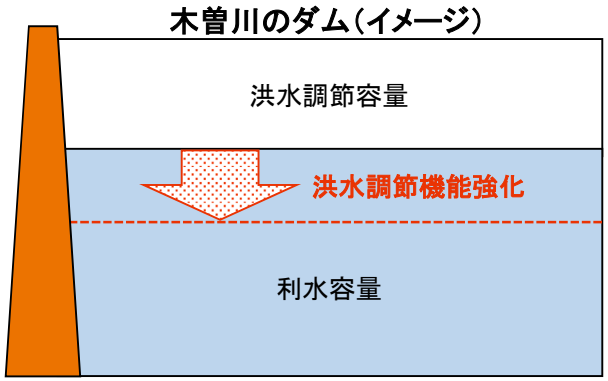


●水道水の質的確保
⇒良質な揖斐川の水を水源に追加

●リスクへの対応力向上
⇒事故などで木曽川から取水できない場合の対応

新用途② 流域治水の推進

■木曽川のダムにて積極的な事前放流
⇒雨が降らずダムの水位が回復しない場合に
新用途の導水により河川の流況を確保



新用途③ 堀川の再生

■新用途の導水を活用した堀川への恒久的な導水